

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス アミスター		令和 7年 3月 14日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動や子どもたちの状態によって部屋を分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		室内・屋内ともに死角ができないように職員を配置し安全に努めている。また、子どもの状態によって個別に対応できる人数配置にしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動内容や静と動で活動場所を区切り集中して取り組める環境構成になっている。子どもたちが認識しやすいように視覚的にわかりやすく表示している。各フロアバリアフリーになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子どもが片付けやすい環境を整えたり、子どもたちが触れる部分は常に清潔に保てるよう消毒液などで拭くなど感染症予防に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		クールダウンできる部屋や個別課題に取り組み部屋など子どもたちの状態によって部屋を分けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルのステップを繰り返すことで、継続的な業務の改善を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に保護者との面談や情報交換をする集まりを開催し、職員間で情報共有し業務改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日の職員ミーティングだけでなく事業所全体でのミーティングを行い、日々情報共有に務めている。改善すべき内容はすぐに実行して振り返りを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現段階では、第三者による外部評価を行うことが出来ていないため、今後、外部評価の機会を設け、業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的に職員研修や外部講師を招いた研修を実施し、仕事へのモチベーションや資質向上を図っている。また、レクリエーション等活動取り入れられる研修も積極的に受けている。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域に基づき、職員が目指す姿と実際の子どもたちの姿を照らし合わせながら、支援プログラムを作成して公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々の子どもの様子や活動の振り返りを行った上で定期的にアセスメントを取り、個別支援計画書の作成を行っている。また、必要に応じて支援計画書の見直し等を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書作成の際には、その子どもに関わる全ての職員で気づきや様子を共有し、実際の様子が反映された支援計画の内容を検討し、作成を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成した支援計画書を個別のファイルに入れ、場所を明確化させることで支援に関わる全て職員が閲覧し、支援に取り入れている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の子どもの療育の様子などをもとに定期的にアセスメントを行い、事業所で使用しているシートに結果を記載してそれぞれがアセスメント結果を確認できるようになっている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		事業所ですべての支援内容が記載されているフォーマットを使用することで必要な項目を適切に設定している。支援内容についても支援にかかわるスタッフで内容を検討し、具体的な内容を入れ込んで設定することができている。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	チームで綿密に話し合い、意見を出し合ってから子どもたちの様子に合わせた活動内容の立案し、検証して次の活動に繋げている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	上半期、下半期で月ごとに目標とする子どもたちの姿をテーマに設定し、5領域に沿って事業所の特色を活かした活動ができるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	本人の特性などを検証しながら個別療育、集団活動を本人に合わせて支援計画の中に取り入れて作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援に入る前に事業所で打ち合わせを行い、職員ミーティングで当日のスケジュールの共有をして連携しながら支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後にはその日の療育の様子や反省、改善についての話し合いを行っている。小さな気づきでも共有して次の療育に繋げる具体的な方法を考えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の療育の様子を記載することができている。日々の支援内容を個々で残し、その様子を職員間で共有し、検証することで必要に応じて改善策の検討に繋げていく。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	子どもの様子や保護者の困り感等により定期的にモニタリングを行い、計画書の作成、変更を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○	ボランティアを受け入れたり、地域イベント等に参加して事業所外との交流を図っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	活動によって複数の選択肢を用意して自己選択の機会を作っている。自ら選択・意思決定し自立に繋げている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者に加え、日々の療育を主に担当しているこどもの状況を良く理解している者も同席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	関係機関との連携をとれるように体制を整えています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	行事予定、下校時間の確認、その日の学校での様子等を送迎時に共有して学校と連している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	他事業所から利用を開始する際には、その事業所との連絡を取り、必要に応じて担当者会議を行い、引継ぎを行うようになっている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現在小学生低学年～中学年が在籍しており、移行した実績がない。今後、サービスを移行する際には相談支援事業所と連携を図りながら移行先の事業所へ支援内容等の情報提供を行っている。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	日々の療育の様子を記載することができている。日々の支援内容を個々で残し、その様子を職員間で共有し検証することで必要に応じて改善策の検討に繋げていく。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	法人内には放課後児童クラブが2事業所あるため、イベントの合同開催や集団レクリエーションなど、交流の機会を定期的に設けている。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	協議会等へ積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	保護者へ連絡用のツールを使用して日々の様子や状況を報告している。必要に応じて電話や自宅への訪問で対応して共通理解できるように取り組んでいる。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者参加型のイベントなどを開くことで情報提供の機会を設けているが、研修の機会を設けることは出来ない。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	保護者に丁寧にわかりやすく伝えるよう心掛けている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	子どもの様子やモニタリングで保護者との話し合いで前向きな意向になるよう確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	保護者に丁寧にわかりやすく伝え同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者からの声を大切にし、必要に応じて面談や助言をできる機会を用意し、支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○	事業所で保護者を招いて交流する保護者会を定期的に開催している。また施設内に複数の事業所が存在するため、きょうだい同士の交流の機会も設定している。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	事業所で苦情担当の窓口を設けることで苦情の際には迅速に対応できる体制を整えている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	組織のHPを利用して各事業所の月ごとの活動計画や行事などを公開し、日々の様子をブログで発信している。また、子どもたちが活動を把握できるよう月の活動カレンダーを掲示している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報の保管場所を共通にし、扱う際には事業所内でのみ使用することを徹底し対策している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	支援にかかわるスタッフはマニュアルを作成し、わかりやすく丁寧な関わり方や伝え方などを心掛け、個々に配慮して情報を伝達している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	事業所主催のイベントを開催して、地域の方々とも交流できる機会を作っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定するとともに、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	月に一回以上、災害・防犯を想定した避難訓練を実施して備えている。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	業務継続計画を策定し、定期的に確認し、必要な訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	入所時に子どもについて記載する用紙の中に、アレルギーやてんかん等について記載する欄があるため、入所前に状況が分かるようにしている。また、記載があった家庭には直接確認をし、一覽で出すことのできるすべてのスタッフが周知できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アレルギーの食物を除去したり、代替のものを提供している。また、定期的に保護者に確認をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画の作成し日々、職員間で連携を取りながら安全に努めている。また、定期的な見直しを行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約時に直接保護者にお伝えしている。変更があれば随時連絡している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	毎日職員ミーティングでヒヤリハットを共有して、原因や改善を話し合い再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止の研修を定期的に受けて、防止対策に繋げている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	どのような時に身体拘束が必要になるか等、実際の子どもの様子を職員間で共有して話し合いをしている。また、支援計画書に記載して保護者に説明している。		